

総合人間形成課程

●課程の教育理念と教育目的

現代社会の課題として、「持続可能性」、「価値の多元化」、「共生」、「国際化」、「生活環境」、「情報化」、「地域社会」、「福祉」、「平和」など多くのキーワードを挙げることができ、すべての人がそれを認識し、主体的にそれに対応することが求められています。総合人間形成課程は、これらについての専門的学識と広い視野、総合的な判断力をもって、地域に生きながらそのニーズに応え、高い志をもって地域に寄り添い、地域の多様な生涯学習活動において中心的指導的な役割を果たし、豊かな地域文化の創出と推進に貢献できる人材を育成します。

●課程のディプロマ・ポリシー(学位授与の方針、卒業時に必ず身につける能力)

<知識・理解>

1. 充実した生涯学習社会を築くため、生涯学習に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を習得している。

<思考・判断>

2. 現代社会で生じているさまざまな課題について論じ、適切な対応を考えることができる。

<技能・表現>

3. 生涯にわたる学習を支える教育活動に取り組むため、高い技能と豊かな表現力を身につけている。

<関心・意欲>

4. 生涯学習に関する自己の学習課題を明確にして、理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる。

<態度>

5. 社会人としての使命感や責任感と多世代にわたる対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。

●課程のアドミッション・ポリシー(学生受け入れの方針、入学時に問われる能力)

<知識・理解・実技能能力>

1. 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や実技能能力を有している。
 - ・高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。
 - ・スポーツ、音楽、造形などに関して、修学に必要な実技能能力を有している。

<思考・判断>

2. 物事を多面的かつ論理的に考察することができる。

＜技能・表現＞

3. 自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

＜関心・意欲＞

4. 教育、人間、自然、文化などにかかわる諸問題に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲がある。

＜態度＞

5. 積極的に他者とかわり、対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。

国際理解教育コース

●コースの教育理念と教育目的

高度な情報化がもたらした今日の新しい国際化時代にあつては、国際共通語としての英語運用能力の向上、必須ツールとしての情報機器活用技術の習得、異文化理解とその前提としての日本文化理解などの重要度が、ますます高まっています。本コースは、国際理解及び国際交流のための諸活動の実践において、その中心的な役割を果たし得る21世紀の地球人を育成します。

●コースのディプロマ・ポリシー(学位授与の方針、卒業時に必ず身につける能力)

＜知識・理解＞

1. 21世紀の豊かな多文化社会を築くため、欧米・日本・中国の言語文化に関する深い理解を有し、得意とする分野の専門的知識を修得している。

＜思考・判断＞

2. 現代の異文化理解のさまざまな課題について多様な視点から論じ、相手文化の立場に立って適切な対応を考えることができる。

＜技能・表現＞

3. 持続的な国際理解教育活動に取り組むため、高い日本語教授力と豊かな英語コミュニケーション力を身につけている。

＜関心・意欲＞

4. 欧米文化理解、日本アジア文化理解、日本語教育に関する自己の学習課題を明確にして、理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる。

＜態度＞

5. 国際人としての使命感や責任感と、異文化を尊重する態度を身につけ、国際社会の一員として適切な行動ができる。

●コースのカリキュラム

カリキュラムの概要

本コースでは、国際理解教育に関する専門知識を身につけるため、教育学や異文化学を始めとして、言語学、文学、コミュニケーション、情報処理などの周辺領域とも深く関連した多種多様な講義や演習が開設されています。理論と実践の両面から、グローバルな視野をもって多角的に物事を捉え、国際理解教育を推進できる人材を養成します。各学年の主な専門授業科目は以下です。

第1学年;英語コミュニケーション演習Ⅰ&Ⅱ, 日本語概説, 海外体験学習(英語圏), 海外体験学習(アジア)

第2学年;国際理解教育論, 日本語教育概論, 日本語教授法, 異文化教育概論, 異文化と中国文学, 英語コミュニケーション演習Ⅲ&Ⅳ, 海外体験学習(英語圏), 海外体験学習(アジア)

第3学年;日本文化情報, 日英語比較論, 異文化とイギリス文学, 中国文化情報, ICTと異文化間コミュニケーションⅡ, アジアと日本近代文学演習, 世界の中の日本語演習, 書写書道概説

第4学年;アジアと中国文化演習, 卒業研究

生活環境コース

●コースの教育理念と教育目的

人類の歴史の中で、現代はある意味で最も「豊かな」時代だといえるでしょう。しかし反面、産業廃棄物等による生活環境の破壊や都市における生活空間の悪化など、私たちの日常生活をおびやかす問題も生じています。これらは、私たち自身が求めてきた「豊かな」生活自体が、その主な原因でもあるのです。本コースでは、このような矛盾の解決方法を探るために、生活環境に関する諸問題について、生活科学や環境科学の手法を用いて研究し、複雑な環境世界の仕組みを解明することで、生活環境問題をかかえる地域社会からの要請に多面的に対応できる人材の養成を目指します。

●コースのディプロマ・ポリシー(学位授与の方針、卒業時に必ず身につける能力)

<知識・理解>

1. 充実した生涯学習社会を築くため、生活環境に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。

<思考・判断>

2. 生活環境にかかわる諸問題について論じ、適切な対応を考えることができる。

＜技能・表現＞

3. 持続可能な未来を支える社会活動に取り組むための技能と豊かな表現力を身につけている。

＜関心・意欲＞

4. 生活環境に関する自己の学習課題を明確にして、理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる。

＜態度＞

5. 社会人としての使命感や責任感と多世代にわたる対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。

●コースのカリキュラム

カリキュラムの概要

生活環境コースでは、身近な生活環境のあり方を、科学的、人間的、社会的観点から考え、より良い環境の実現に取り組むことのできる人材の養成を行います。4年間の教育カリキュラムのまとめとして、学生には卒業研究を課しています。各学年の主な専門授業科目は以下です。

第1学年;生活科学概論, 人のくらしと自然, 人間生活原論, 水循環と生活環境

第2学年;環境物質科学, 住居学, 保育学, 人間と科学・環境, 自然災害論

第3学年;環境と社会問題, 食生活の安全と健康, 先端科学と生活, 環境と生物

第4学年;卒業研究

情報教育コース

●コースの教育理念と教育目的

近年の社会は、従来の予想をはるかに超えた高度情報化が進んでいます。細分化が進み、仕事が多様化しているので、情報分野で活躍を目指す方法にも様々な選択肢があります。

本コースでは、生涯学習を念頭に置いた基礎知識の習得を目指します。そのために、講義・演習により情報科学に関する理論と情報通信技術（ICT）を学び、現代社会における情報を研究するカリキュラムを設置しました。加えて情報通信技術に携わる者としての倫理観や情報教育に関する課題についても学習し、社会で幅広く活躍できる人材に成長することを目標としています。

●コースのディプロマ・ポリシー(学位授与の方針、卒業時に必ず身につける能力)

<知識・理解>

1. 生涯学習について理解し、情報技術に関する専門的知識を習得している。

<思考・判断>

2. 現代の情報化社会で生じているさまざまな課題について論じ、適切な対応を考えることができる。

<技能・表現>

3. 情報教育に取り組むため、高い技能と豊かな表現力を身につけている。

<関心・意欲>

4. 情報教育に関する自己の学習課題を明確にして、理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる。

<態度>

5. 情報技術に携わるものとしての倫理観を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。

●コースのカリキュラム

カリキュラムの概要

各学年の主な専門授業科目は以下です。

第1学年;情報科学基礎, プログラミング言語, データベース論

第2学年;データ構造とアルゴリズム, ハードウェア概論, 情報ネットワーク

第3学年;科学技術と教育, メディア基礎, プロジェクト研究

第4学年;認知科学, 卒業研究

人間社会デザインコース

●コースの教育理念と教育目的

本コースは、持続可能で、多様な人間の共生が可能な社会のあり方を、特に「地域」、「福祉」、「平和」に焦点づけて主体的に考え、その実現を目指す次代のリーダーの育成を目指します。そのため、学生は、高齢化、社会的格差、開発と環境、紛争、ジェンダー など、現代社会をめぐる諸問題に関する専門科目を履修し、問題意識を醸成しながら関連分野の多様なフィールドワーク

やワークショップに参加し、幅広い教養と専門的知識、人間関係力、柔軟な思考力を培い、問題解決力を磨きます。

●コースのディプロマ・ポリシー(学位授与の方針、卒業時に必ず身につける能力)

＜知識・理解＞

1. 共生社会を築くため、地域・福祉・平和に関する幅広い知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。

＜思考・判断＞

2. 自分の生き方を社会のあり方と結びつけてデザイン(考案・計画)することができる。

＜技能・表現＞

3. 科学的・実践的な知見に基づいて、多様な社会的問題に柔軟に対応できる高い技術と表現力を身につけている。

＜関心・意欲＞

4. 地域・福祉・平和をめぐる現代社会における諸問題に関心を持ち、これらの問題に取り組むための理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる。

＜態度＞

5. 共生社会のあり方を主体的に考えて、諸機関や人材をコーディネートする対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。

●コースのカリキュラム

カリキュラムの概要

本コースでは、「地域」「福祉」「平和」という三つのフォーラム(対話の場)を設けています。本コースの学生は、一年生から卒業までの長期にわたって、各フォーラムを行き来しながら、理論と体験を統合した実践的な知を養うことになります。

各フォーラムには3～4名の教員が所属し、文献購読や議論を通じて皆さんの思考能力を高め、お手伝いをします。また、演習の一環として、皆さんは、NPOなどの民間団体と交流して具体的な活動に触れることになります。各学年の主な専門授業科目は以下です。

第1学年;文献講読基礎、地域学入門

第2学年;ディベート、資料論、福祉社会学、希望の経済学、市民と政治、地図と地理情報システム、日本史における地域社会、アジア史における戦争と平和

第3学年;共生の倫理学、地域地理学、環境地理学、ヨーロッパ女性史

第 4 学年; 国際福祉・開発論, 経済思想, 中東歴史事情